

1999年7月28日

通院ボランティア通信 【いどばた No.2】

全腎協事務局作成

No.1号から1か月以上が経ってしまいましたが、みなさまいかがお過ごしでしょうか。今後はみなさまに忘れられないよう、月1回発行する予定です…。

さて、前号に同封しました「つぶやき」カードで、早速お便りをいただきましたので、ご紹介したいと思います。

なお、「No.2」は、前号の送付先(28ヵ所)に準備中の長崎県腎協・愛知県腎協・兵庫県腎友会西播支部を加えた31ヵ所にお届けします。

『つぶやきコーナー』

◆竹井 領吉 たけい りょうきち (ボランティアローズ会/患者会役員)

全国の送迎に携わっておられます皆様、特に運転者の方のご苦労は大変だと思います。ローズ会では元気な患者の方々の協力もいただき、会長はじめ病院の親切な対応を受けながら、6か月間曲がりなりにやってこられました。まだまだ市民一般は、真のボランティアにはほど遠い考えの方が多いと思います。

全腎協をはじめ県腎協他の障害者の会の縦横の組織を生かし、我々送迎が行いやすい時代になるように運動していただき、又、自治体にも介護保険の高齢者のための費用負担をお願いして下さい。(以下、全腎協への要望は中略。)
国民(市民)の声、健康な人の透析患者に対する費用は出し過ぎだとも聞き、確かに年間の大きな出費です。それも当たり前のことと、我々患者は思っているのではないのでしょうか。少しでも世の中のためになる活動もしなければいけないと思います。

◆川口 大司 かわぐち たいし (平塚送迎ボランティアグループ/送迎ボランティア)

私達が送迎している透析者は、歩行も困難な方が多く、日常生活も大変不自由な思いをされています。又、家族にしても長い間には、辛くあたることもあるようです。しかし、患者は週3回通院しなければならない。経済的なこともあるが、タクシーよりボランティアの車に乗り、会話ができて嬉しくいわれる。そんな事情を知るとボランティア活動にも力が入る強この頃である。

Welcome to
Our Home Page



◆高重 靖 たかしげ やすし (ジャスミン/患者会役員)

神戸市難病連送迎支援の会「ジャスミン」の
ホームページができました。ぜひご覧下さい。
今後は、メールでの情報支援もできるように。
みなさんよろしく！

<http://www.caps.ne.jp/jasmine/index.html>

Y 「ステップ福岡」にボランティアさん集まれ — 9月発足、10月スタート —

昨年から準備を進めてきた福岡市腎友会の送迎事業がもうすぐ発足します。コーディネーターに続き、市内透析施設のご好意で事務所が決まり、資金面では全腎協・福腎協とロータリークラブからも助成される見込みです。愛称は「ステップ福岡」と決まり、すでに会報も出しています。

気になるボランティア募集ですが、準備委員の真砂^{まさご}さんからいただいたお便りによると、市政記者会でレクチャーをした結果、西日本新聞に掲載され、3日間で男性6名、女性4名の応募があったそうです。応募の電話に対応するため「私と家内が必ず家に詰めることにしています」とのことで、真砂さんの嬉しい悲鳴が聞こえてきそうです。

Y 愛知でも産声…、東海市と安城市で

東海市の東海クリニックでは、昨年6月に患者がボランティア団体「通院支援活動を考える会」を結成しました(市社協にも登録)。この会は、患者も社会貢献しよう、患者同士助け合おうという目的で発足したため、ボランティアが会費を払い、利用者の費用負担はありません。現在、ボランティア7名がマイカーで患者さん2名の送迎を行っています。来年4月には、東海クリニック患者会の事業から、東海市腎友会の事業として、市内全域で取り組む予定です。

また、安城市腎友会も、送迎ボランティア事業を近く発足する予定です。奉仕活動を通して市と接点があるほか、市内の透析施設も協力的なので、各方面に働きかけを続けながら、準備を進めていきたい考えです。

✧ ボランティアの横のつながりほしい

「さくらの会」1周年を迎え

7月18日に東京板橋区で「さくらの会」の第2回総会が開かれました。第1部では、来賓の区議会議員の方から「これだけの活動をしているとは知らなかった」「区議会に助成を要請してはどうか」などの声が聞かれました。

第2部の懇談会では、板橋区ボランティア活動推進主査の町田氏を招いて“物品の提供”や“ボランティア募集の広報”などについて意見が交わされましたが、ボランティアさんからは「もっとボランティア同士のつながりを持ちたい」との要望が出されました。送迎ボランティアさんは、ひとりで活動することが殆どなので不安やストレスも溜ります。「ボランティアにはどんな方がいるのか知りたい」「簡単な企画で良いので交流する機会をつくって」「実はこんな苦労話が…」という声に、ボランティア交流会や何でも話せる場の大切さを改めて感じました。

✧ 移動サービスって何？ 行政には概念なし

「移動ネット」の統一見解を

「移動ネット」では、事故対策や広報編集など課題別プロジェクトを作っていますが、そのうちの法制度プロジェクトが6月19日に学習会を開きました。このプロジェクトは、2種免許を持たない白ナンバーの車が利用料をとって運行する、いわゆる「白タク」問題を中心に取り組んでいます。学習会のシンポジストを運輸省に依頼したところ「移動サービスという概念がないので答えようがない」と断られてしまいました。

「移動ネット」は、マイカーボランティア団体から、福祉車両を何台も所有しタクシー並みの料金がかかる団体まで、さまざまな形態の団体で構成されています。運輸省は、純粋なボランティア団体ならば規制の対象とはしない方針ですが、「有償ボランティアも純粋なボランティアなのか」「その収入で生活している人がいるなら、民間輸送業者ととれる」「財源や運転者の管理はどのような実態なのか、まず非営利移動サービス団体の輪郭や要望を明確にしてほしい」と説明しています。

シンポジスト不在になってしまった学習会では、「ボランティアでも事故時

の補償や安全を確保しなければ→そのため福祉車両・専従職員を配置→お金がかかる→採算を合わせるにはタクシー並みの料金体系になってしまう、でも営利は追及していない」という声や、「白タク行為として摘発はされないが、陸運局と何度もケンカした」「社会的な位置付けが確立されれば、行政の助成やボランティア募集もスムーズにできるようになるはず」という意見が出されましたが、運輸省の問いに対しては明確な答えを出せないままでした。

法の抵触でいえば、ボランティアによる「配食サービス」というのがあります。取り組みが始まった当時は食品衛生法に違反すると問題視されていましたが、必要性を訴え続け、今では多くの自治体の助成を受けて高齢者の生活を支えています。移動サービスもこれに続けばよいのですが。

全腎協関係の送迎事業では、釧路市の「さわやか通院介護」に対しタクシー乗務員の労組から反対があった以外には、特に問題視されていないようですが、“利用料”にはどの団体も気を使い、“寄付”や“謝礼”としています。

要介護透析患者の通院保障については、厚生省や自治体に要請を続けていますが、現状ではボランティアさんや病院のサービスに頼らざるを得ません。ボランティアさんが活動しやすい、またこの事業が拡がりやすい環境を作るため、いろいろな場面で理解を求めていく必要があると思います。



*みなさまの団体では、ボランティア同士または利用者の方との交流を、どのように図っていらっしゃいますか。ご意見やPRをお待ちしています。

*今号から送付先に加えました兵庫県腎友会西播支部、長崎県腎協でも通院送迎事業の準備を進めていますので、次号でご紹介したいと思います。